



## イエスと困窮している人たち

### 暗唱 聖句

「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである」

(ルカ 4：18、19、口語訳)

「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」(ルカ 4：18、19、新共同訳)

### 今週の 聖句

ルカ 1：46～55、4：16～21、7：18～23、マタイ 12：15～21、マタイ 21：12～16、マルコ 11：15～19、イザヤ 53：3～6

### 安息日 午後 8/10

### 今週のテーマ

受肉の理由はほかにもありますが、イエスは、神がどのようなお方であるかを私たちに示すために来られました。イエスは、教えることによって、御自分を犠牲にすることによって、また生き方によって、つまり、普通の人々との交流を通してそれをなさいました。彼の行動の多くは、人々の人生の中に急激かつ現実的な変化を起こしたのです。

メシアの働きのこの側面は、旧約の預言者たち、イエスの母マリア、またイエス御自身によっても預言されていました。イエスは、記録されている最初の説教の中で御自分の使命を明らかにしておられます(ルカ 4章)。加えて、福音書の記者たちは、イエスの物語を記す際に、しばしば旧約の預言者たちの言葉を用いてイエスがなさっていたことを説明しました。このようにイエスの人生は、このような預言者たちの(貧しく虐げられた人たちに対する同情を含む)伝統の中にはっきりと見られました。

しかし、宗教指導者たちはイエスを脅威とみなしました。不当で残虐な行為のひどい一例を挙げれば、彼らはイエスを逮捕し、不当に裁き、十字架にかけました。イエスによって、神は、不当行為というもののがどのように感じられるかをご存じであり、イエスの死において、神は悪の恐ろしさを顕在化なさったのです。しかしイエスの復活によって、神は、命、憐れみ、救いを勝ち取られました。

数日前、マリアは天使ガブリエルからメッセージを受け取っていました。その場面を想像してみてください。いと高き方の子、イエスの母親に彼女がなるのだと、ガブリエルは告げました。マリアは、だれにも話さず、ただ年上の親戚であるエリサベトを訪ねます。彼女も奇跡的な赤ちゃんの出産を控えていました。エリサベトは霊的洞察力によって、マリアが何かを言う機会を得る前に彼女の知らせに気づきます。そして、2人は神の約束と憐れみを一緒に祝いました。

**問1** ルカ1：46～55を読んでください。マリアだけに関係のあること、「力ある方が、わたしに偉大なことをなさいました」（ルカ1：49）から、一般的なことまで、賛美が入り混じっていることに注目してください。神に対する私たちの賛美と礼拝には、なぜ個人的なことと一般的なことの両方が含まれる必要がありますか。

これは、詩編の中にあっても、ヘブライの預言者たちの文書の中にあってもしっくりくる優れた歌です。マリアは、神に対する驚きと感謝の念でいっぱいになっています。彼女は、神が彼女の人生の中で働いておられるのをはっきり見てきましたが、祖国と人類のための神のより大きな計画の意味もよくわかっています。

しかしマリアの理解では、神は力強く、賛美に値するだけでなく、憐れみ深いお方であり、謙虚な人、虐げられた人、貧しい人たちに対して特別な関心を持っているようです。天使は、マリアの差し迫った出産の「良い知らせ」を告知するとすぐに、彼女が次のように歌う前に去っていました——「(主は) 権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」（ルカ1：52、53）。

地上におけるイエスの生涯の物語のまさに冒頭で、彼は支配者として（しかし、通常とは異なる種類の王国の支配者として）紹介されています（ルカ1：43参照）。多くの聖書注解者が記してきたように、イエスが建国し、樹立するために来られた神の国は、現世の国々の通常の社会的秩序と比べると「逆転の王国」になるはずのものでした。イエスの国に関する説明によれば、この世の権力ある人や富める人たちは、[そこでは] 最も小さい者であり、貧しく虐げられた人たちは、[そこでは] 解放され、「満たされ」、高く上げられるのです。

◆ もし教会が神の国のあらわれとなるべきなら、マリアが描いた「逆転の王国」のひな型に教会はなっていますか。どうしたら、キリストの愛の対象である金持ちや権力者たちにも不公平になることなく、ひな型になれるでしょうか。

その日のために定められた朗読箇所であったにしる、イエスが朗読のために与えられた巻物の中から関連する聖句（イザ 61：1、2）を意図的に見つけられたにしる、これらの聖句が彼の最初の公的説教のテキストであったことは、偶然ではありませんでした。ルカ 4：16～21におけるイエスの短い説教の物語——「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」（ルカ 4：21）——が、イエスの公生涯に関するルカの記録の始まりであることも偶然ではありません。

イエスは、「逆転の王国」についてのマリアの歌の主題を取り上げ、それを御自分の働きの中で効果的に用いているように見えます。イエスとルカは、今なさっていることや、これからなさろうとしていることを説明するためにイザヤの預言を用いましたが、それは、マリアが30年前に言いあらわしたことを表現するもう一つの方法でもあったのです。貧しい人、傷ついている人、虐げられた人たちは、イエスが伝えておられた良い知らせの特別な対象、特別な受け手でした。

イエスは、イザヤ 61 章のこれらの聖句を御自分の宣教声明として採用なさいました。イエスの奉仕と宣教は、霊的であるとともに实际的でなければなりません。そこで彼は、霊的なものと实际的なものとが、私たちが時折思うほど隔たっていないことを行動で示されます。イエスと彼の弟子たちにとって、肉体的、实际的に人々の世話をすることは、彼らを霊的に世話をすることの少なくとも一部でした。

**問2** ルカ 4：16～21 と 7：18～23 を読み比べてください。イエスの神性とメシア性に関する同様の質問に対して、あなたならどう答えるでしょうか。

イエスが弟子たちを派遣なさったとき、彼らに授けられた任務もこの使命と一致していました。弟子たちは、「天の国は近づいた」（マタ 10：7）と告げる一方で、イエスからのさらなる命令は、「病人をいやし、死者を生き返らせ、重い皮膚病を患っている人を清くし、悪霊を追い払いなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい」（同 10：8）というものでした。イエスの名による彼らの働きは、イエスの働きの価値観や原則、またイエスが人々を招かれた王国の価値観や原則を反映させ、実行することでした。弟子たちもまた、いちばん下の人、最も小さい人、失われた人々を高く上げるというイエスの使命に参加する必要がありました。

◆ このような働きと、失われた世界に三天使の使命を宣べ伝えるという重要な使命とを、私たちはどのように両立できるでしょうか。

福音書にはイエスの奇跡物語が散りばめられています。イザヤが預言していたように、イエスは目の見えない人をいやし、病気によってとらわれてきた人たち、時には長年苦しんできた人たちを解放なさいました（例えば、マコ5:24～34、ヨハ5:1～15参照）。しかし、イエスはそれ以上のことをなさいました。足の不自由な人を歩けるようにし、重い皮膚病の人たちを（「汚れて」いたにもかかわらず、単に言葉だけでなく、触れることによって）いやし、人々の心と体に取りついていた悪霊に立ち向かい、死者さえも復活させられたのです。

このような奇跡は、群衆を引きつけ、イエスを疑い、批判する多くの者たちに彼の力を証明するためのものであったと、私たちは想像するかもしれませんが、必ずしもそうではありませんでした。それどころかイエスは、おいやしになった人に、そのことを他言してはならない、としばしばお命じになりました。いやされたばかりの人たちがこの命令に従って、彼らのすばらしいニュースを胸に秘めていたようには思えませんが、イエスは、彼の奇跡が見世物よりもずっと重要なもののためであったことを示そうとなさっておられたのです。言うまでもなく、その究極の目的は、人々がイエスによる救いを受け入れることでした。

しかし、イエスのいやしの奇跡は、彼の同情のあらわれの一つでした。例えば、マタイは5000人の給食の話の導入部分で、「イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた」（マタ14:14）と語っています。イエスは傷ついている人たちの痛みを感じて、彼が出会ったその人たちを助け、高く上げるために御自分のできることを彼らになさいました。

**問3** マタイ12:15～21におけるイザヤの預言を読んでください。イザヤとマタイは、イエスがなさっていたことが病人のいやし以上のものだとみていますか。

「キリストが行われた奇跡の一つ一つは、キリストの神性のしるしであった。イエスは、メシヤについて予告された働きをしておられたが、パリサイ人にとって、こうした憐れみのみわざはまことに不愉快だった。ユダヤ人の指導者たちは、人間の苦しみを冷酷な無関心をもってながめた。多くの場合、キリストがやわらげてくださった苦しきは、こうした指導者たちの利己心と圧迫から生じたものであった。だからキリストの奇跡は、彼らにとって一つの<sup>けんせき</sup>譴責であった」（『希望への光』882ページ、『各時代の希望』中巻169、170ページ）。

イエスのいやしの奇跡は、同情と正義の行為でした。しかしいかなる場合も、奇跡はそれ自身が目的ではなかったのです。突き詰めれば、キリストがなさったすべては、人々を永遠の命へ導くという目的のためのものでした（ヨハ17:3参照）。

福音書の中のイエスの物語を読むとき、私たちはイエスの優しいイメージ（病人や子どもたちに対する彼の気遣い、失われたものを探し求める彼の物語、神の国に関する彼の話など）にしばしば引きつけられます。だからかもしれませんが、ほかの物語の中でイエスが（とりわけ当時の宗教指導者や彼らの行為に対して）激しく無遠慮に振る舞う姿を見て、私たちは驚いてしまうことがあります。

**問4** マタイ 21：12～16、マルコ 11：15～19、ルカ 19：45～48、ヨハネ 2：13～17 を読んでください。類似した物語が、どの福音書にもある意味は何ですか。

この出来事がすべての福音書に取められていることは、驚くに値しません。それは、劇的要素、アクション、熱い思いにあふれた物語です。イエスは明らかに、神殿のこのような使われ方や、犠牲の動物の販売が真の礼拝に置き換わっていることを憂慮しておられました。それらの犠牲が象徴すべきこと、つまりこの世の罪のためにイエスが代わって死なれることへのなんという冒瀆でしょう。

このような直接的行動は、ヘブライの預言者たちの伝統とぴったり合います。この点は、各福音書の中で、イエスが福音書記者がこの物語の中で起こっていることを説明するために、イザヤ、エレミヤ、詩編から引用していることによって暗示されています。人々はイエスを預言者として認め（マタイ 21：11 参照）、彼が商人や両替人を追い出されたあと、神殿の境内でいやし、教える彼のもとへやって来ました。イエスの教えを聞きながら、彼の触れた手の中にいやしを、自分の心の中に高まる希望を見いだしたのは、この人たちでした。

宗教指導者たちもイエスを預言者（彼らの権力と、社会的秩序における彼らの安定を脅かす者）として認め、彼らの前任者たちがこれまで何世紀にもわたって預言者に陰謀を企んできたのと同様、イエスを殺す計画を立てるために立ち去りました（民衆と宗教指導者のこの対比に関しては、ルカ 19：47、48 参照）。

◆ 教会員として、私たちの所属教会が、キリストの時代の神殿のようにならないよう、私たちは自分の役割を果たすことができますか。どうしたらあのような霊的危険を避けることができますか。

神が、貧しく虐げられた人たちに目を向け、彼らの叫びを聞いてくださる神であるということは、慰めになります。神がイエスにおいて、この世の最悪の残忍さ、抑圧、不正を体験し、忍耐された神であるということは驚きです。イエスがその人生と働きの中で実際に示されたあらゆる同情や善良さにもかかわらず、憎悪、嫉妬、不正の結果として、彼は殺されました。

ゲツセマネの園における苦悩の祈りから、逮捕、「誘惑」、拷問、あざけり、十字架刑、そして死に至るまで、イエスは、痛み、残忍さ、悪、抑圧の権力という苛酷な試練に耐えられました。これらすべては、それを我慢されたお方の潔白、純粹さ、善良さによって増幅されたのでした——「(キリストは) かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリ2:7, 8)。私たちは救済史というレンズを通して、私たちのためのイエスの犠牲の美しさを見ますが、彼が味わわれた苦しみと不正行為の残忍さを忘れてはなりません。

**問5** イザヤ53:3～6を読んでください。これは、罪なきお方イエスの身に起きたことについて、私たちに何を教えていますか。

神はイエスにおいて、悪や不正行為の犠牲になることがどのように感じられるかを知っておられます。無実の人間の処刑は不法行為です。神であるイエスを殺害することはなおさらです。神がこのように、破綻し、墮落した状態にある私たちと一体化されたのですから、私たちは彼の共感、同情、誠実さを疑うことができません——「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」(へブ4:15)。私たちの神の御品性のなんという啓示でしょう！ 十字架があらゆる神についての良い知らせを、私たちはどうやって理解したらよいのでしょうか。

◆ 主のために行うすべてにおいて、とりわけ助けを必要としている人たちに手を差し伸べる際に、なぜ私たちは、イエスの身代わりの死(単に私たちのためだけでなく、助けを必要としている人たちのためでもある)を、私たちの使命や目的の中心に常に据えていなければならないのですか。

参考資料として、『ミニストリー・オブ・ヒーリング』第2章「奉仕の日々」、『各時代の希望』第65章「ふたたびきよめられた宮」、第77章「ピラトの法廷で」を読んでください。

「神の律法を犯す者は必ず罰を受けるということは、神がみ言葉の中にはっきりと証拠を与えておられる。神は恵み深いお方であるから、罪人を罰するようなことはなさらないと思い込んでいる者は、ただカルバリーの十字架をながめて見るとよい。汚れのない神のみ子の死が、『罪の支払う報酬は死である』ことと、神の律法を犯せばそれに相当する報いがあることとの証拠である。罪のないキリストが、人のために罪となられた。罪を負い、天父のみ顔をかくされて見ることができず、ついに、キリストの心臓は破裂し、その生命は砕かれたのである。こうした犠牲は、すべて、罪人が贖われるために払われたのである。他のどんな方法によっても、人は罪の刑罰から救われることはできない。このような価を払って備えられた贖いにあずかることを拒否する者は、犯した罪の刑罰を自分の身に負わなければならない」（『希望への光』1860ページ、『各時代の争闘』下巻289ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① イエスは言及された「国」を実現するために、政治的改革を決して主張なさいませんでした。結局、抑圧された人や虐げられた人を助けるという名目のもとに、暴力や抑圧を用いた人々の非常に悲しい物語で歴史はあふれています。大抵は、圧制的階級が別の圧制的階級に置き換わったことにすぎませんでした。クリスチャンは、虐げられた人たちを助けようとするために存在する権力（者）に協力できますし、そうすべきですが、その目的を達成するために政治を用いることに対して、なぜ私たちはいつも慎重でなければならないのですか。

### まとめ

福音書の中でイエスの働きは、旧約の預言者たちの働きに関連づけて紹介され、説明されています。貧しい人々への良い知らせ、虐げられた人々たちのための自由、衰弱した人々たちのためのいやしは、メシアのしるし（イエスとその働きの中で実際に行われたこと）として宣べ伝えられました。しかしイエスは、その死において不正行為の矢面にも立ち、最終的に、最悪の墮落した人間性、残忍さに勝利されました。私たちがのためのイエスの不当な死のおかげで、私たちの罪は赦されるのであり、私たちは永遠の命の約束を得ているのです。